



## 難民都市

—500人のシェアハウス—

大沼 慈佳 (おおぬま やすか)

日本大学 生産工学部 建築工学科



都市難民のためのシェアハウスの提案。

100年に一度とされる世界的不況。住むところがなく都市を彷徨、「難民者」たち。

現在、日本の貧困率は、15.7% 6人に1人が「貧困」で、片親の家庭に至っては54%半数が貧困状態にあり、日本は今や「貧困大国」と言えます。

経済的な困窮は、人を社会から排除し、孤立させ、家族や友人、会社から切り離された者は、生きる意欲すら失っていく…。現にネットカフェ難民や路上生活者などの社会問題も生み出しています。

そんな時代だから、都市の中に一つの世界をつくりだす。境遇・目的を共にした人々の世界。一見、閉ざされた世界で彼らは、場所を分かち合い、モノを分かち合い、気持ちを分かち合い、共に生きていく。



**講評** 世界不況に依り都市に溢れる若き難民達に「生きる」と言うベクトルを与える為の場を内包した垂直な街を新宿に出現させた。

この建物は、敷地をトレースした外皮と方位をトレースしたコアとの間に建設的な空間を提案している。その空間は、住民のストレスを開放する為の仕掛けで、公園や広場・遊歩道などの「憩いの場」と考えられる。

そしてその為の操作として、壁を折る事で開口を設け建物を繋ぐと説明されている。他方この建物は、社会的な位置付けとして職業、求職の支援・ライフケアの場としても想定されている。この作品は、今現実起こっている問題に対して途方もない解決策を提示した。そして誰もがこのテーマを期待せずにはいられないだろう。

(審査員：山下 勲)